

指導方法の課題分析と具体的な授業改善策及び補充指導等の計画

国語

練小44 立野小学校 平成24年度

教科	指導方法の課題分析	具体的な授業改善	補充・発展的指導計画
1年	「書くこと」の力が十分でない。平仮名の読み書きは全員できるようになってきたが、助詞「は、を、へ」の正しい使い方ができていない。これは、文字を習い始めたばかりであるとともに、言葉を組み立てて話したり書いたりする経験が少ないためと思われる。	やったこと、見たこと、心に残ったことを書くことで伝える指導を継続し力をつけていく。文字の間違いを正し、使い方に慣れるよう細かな指導を行う。考えや思いを伝える場を多くとり、慣れさせることで「話す・聞く」の力もつけていく。	書く力をつけるために、日常あったことや心に残ったことなどを簡単な文で表すことを積み重ねていく。日直のスピーチや授業での発表など、自分の考えを伝える場を多くとる。
2年	「聞く話す」の力が児童に不足しているが、これは日常生活の中での練習不足と考えられる。また、「読む力」は、個人差が大きい。言語事項に関しては個別に取り上げ指導をしていて少しずつ定着している。集団での音読や読み聞かせにより、読み物に興味をもつようになり一人読みもできるようになってきた。	言語事項に関しては助詞、カタカナ、漢字、句読点、かぎなどの正しい使い方を「書くこと」の指導の中で継続して行う。読むことに慣れてきたので音読発表会を行ったり、自分なりに読み取ったことを工夫して音読したりする機会を設ける。	「書くこと」の力をつけるために、その日の出来事や自分の考え・気持ちを簡単な文で表す事を積み重ね指導していく。また優れた文を紹介していく。「話す・聞く」力をつけるために、朝の会や帰りの会の時間を利用してスピーチを行う。本の紹介や読み聞かせにより本に興味を持たせる。
3年	「聞く話す」の力が児童に不足しているが、これは日常生活の中での練習不足と考えられる。また、「読む力」は、児童間の差が著しい。読書指導の推進も課題になっている。言語事項の学年配当漢字200字の習熟は難しい。	朝の会での日直のスピーチや、詩の暗唱を常時活動として取り上げる等「聞く話す」活動を国語の授業以外にも多く取り入れる。「読む力」に関しては、音読カードだけでなく自主的に読書に取り組むよう本の紹介をしていく。	日記を継続して書くよう指導するだけでなく、よい文は皆に紹介していく。読書カードを夏休み、読書旬間だけでなく継続的に使用し、読書を進めていく。
4年	日記・作文指導など、書く活動を充実させてきた。しかし、正しい文章を書くことについては、個人差が大きい。音読の力が向上しているので、さらに指導の一層の工夫を図る。漢字の書き取りに個人差が見られる。漢字の指導方法を工夫し、定着率を高める。指導と評価の一体化を図る。	体験活動後などは、伝えたいことを書く機会をとらえて積極的に感想などを書かせるようにする。児童が書いた文は、学級の全員が読み、お互いに良い表現などを深められるように、一覧などにして紹介する。教科書の音読の他、学級の実態に合った詩等を教師が選定して児童に配布し、楽しく音読する。 漢字テストを頻繁に実施する。	家庭学習で毎日漢字の宿題を出す。音読の宿題では、保護者にも付き添っていただき、良いところを認めて伸ばしていく。 よみママや朝読書、週に一度の図書時間の他、教師による読み聞かせなども充実させ、模範になる文章に触れさせるようにする。
5年	「話すこと・聞くこと」では特に目的意識をもって聞く力が不足しているように感じられる。漫然と話を聞くのではなく、聞く観点を持ちながら、軽重をつけて聞く力が必要である。	目的意識をもちながら話を聞くことができるように、「話すこと」「聞くこと」「話し合うこと」の関連を図る。要点を押さえた話し方、大切なことを聞き落とさない力、一つの話題に沿って話し合える力などを養っていく。	補充的な指導として、聞き取って欲しい内容を事前に説明し、目的意識をもちながら話を聞くことができるようにする。(短い時間から長い時間へ) また、効果的なメモのとり方を身に付けられるようにしていく。
6年	読解力や表現力については、全国平均以上の力を身に付けている児童が多いが、語彙が豊富な割に漢字が書けない。漢字を書く習慣と反復練習が足りないためと思われる。	短時間でも毎日反復学習を行う。確実に覚えられたか確認するため小テストを定期的に行い、理解が不十分な場合には、さらに練習をさせる。また、文章を書く際に既習の漢字を使うよう指導していく。	スピーチ原稿を月1回以上書き、書く習慣を身につけさせるとともに、スピーチを通して話す聞く力を高める。また書いた原稿をつづっていく、充実感を味わわせる。

指導方法の課題分析と具体的な授業改善策及び補充指導等の計画

社会

練小44 立野小学校 平成24年度

教科	指導方法の課題分析	具体的な授業改善	補充・発展的指導計画
1年			
2年			
3年	<p>学区域・学年集団に合わせた資料を、進んで学習に取り入れていく。社会科としての学習がまだ定着していないので、資料の活用の技能が身に付いていない。副読本を中心に資料の見方や使い方の指導をしていく。</p>	<p>数多くの資料を学習に活用し、見方を考えさせることで、より多くの内容を読み取っていけるようにする。「わたしたちの練馬区」を参考に、地域資料を開発・充実していく。</p>	<p>日常生活と学習の結びつきを考え、積極的に取材を勧めさせていく。保護者に情報の提供を呼びかけ、連携をとる。地域の施設や人材に協力を求め、充実した学習を計画していく。</p>
4年	<p>ねらいの明確化を図り、日常生活との関連を図る。学習するにあたって、必要な用語や資料の見方を定着させる。指導と評価の一体化を図る。</p>	<p>子どもの身近な生活に結びつく資料提示及び資料の正確な読み取りに基づくまとめ方を重視する。児童に疑問をもたせたり、深めたりするような発問の工夫をして、じっくりと考える時間をとる。白地図やワークシートなどを工夫して、知識の定着を図る。具体的な体験や見学を取り入れ、知識の定着を図る。評価規準及び、つまずきの分析と手立ての明確化。</p>	<p>身近な地域の公共施設の利用や、自分の生活の中での生産、販売活動などを積極的に見つけ、かかわっていかれるよう、情報の提供や保護者や地域との連携を取り入れる。</p>
5年	<p>社会事象についての知識を理解することはよくできるが、自分の生活と結びつけて考えるところまでは至っていない。自分たちの生活を支えている産業について、人々の思いや願いを考える機会が少ないためと考えられる。</p>	<p>学習したことを実生活と結びつけることに取り組んでいく。新聞やパンフレットやポスターにまとめ、他の人に知らせたり、自分ができることを実践させたりすることに取り組ませる。</p>	<p>自ら課題をもって、調べ学習を中心に行い、問題を追及し、まとめる力を身につけさせる。</p>
6年	<p>歴史的分野で興味をもち、学習に取り組んでいる。全体的に知識はよく理解している。観察・資料活用の技能・表現の力には個人差が大きく、特に複数の資料を活用する部分はより指導の工夫が必要である。</p>	<p>各種の資料や地図を活用しながら、読み取れることを一つずつ確認していく。また、一つの資料から多様なことがつかめることを理解させる。日常生活の新聞記事など身近な資料を取り上げ、関心をもつようにさせる。</p>	<p>資料や地図から読み取れる内容をレポートとして作成する。割り付けの仕方なども様々に提示し、自ら課題をもち、問題を追求し、まとめる力を身につけさせる。</p>

指導方法の課題分析と具体的な授業改善策及び補充指導等の計画

算数

練小44 立野小学校 平成24年度

教科	指導方法の課題分析	具体的な授業改善	補充・発展的指導計画
1年	「数と計算」の足し算引き算、数の弁別、順序、大小の理解はできている。文章を読み取って式に表すことができない児童もいる。	文章題を分析し、ブロックを足したり引いたりして操作すること、足し算引き算のキーワードになる言葉を結びつけて覚えさせたり、絵にかいたり、さまざまな尋ね方をしている問題を多く取り組ませる。	個人差があるので個別指導をしたり、具体物、ブロックを使ったりして理解を深める指導をする。
2年	「数と計算」領域は、理解し計算力もついてきたが、繰り上がりや繰り下がりのある計算は定着していない児童がいる。文章題は読解力不足のため、理解できていなかったり、100より大きい数の理解ができていなかったりする児童がいる。	個別指導をしながらつまずきの解決をしていく。「量と測定」に関しては、問題演習や日常生活の中での応用を充実させ、定着を図る。	理解や作業時間にも個人差があるので、発展・応用的なワークシートを用意する。個別指導を効果的に行う。プリントを作成し、家庭学習にするなど、繰り返しの練習を大切にする。
3年	「数と計算」領域はおおむねできている。文章題の立式について、人に頼り、自分でできない児童がいる。少人数クラスの分け方にも検討が必要。	少人数クラスは單元ごとに編成し、担当者が評価まで責任を持って指導する。量と測定に関しては、問題演習や日常生活の中での応用を充実させ、定着を図る。	プリントを作成し、授業の中で使用するだけでなく、家庭学習にするなど、練習を増やす。少人数のクラス分けを効果的に行っていく。
4年	個人差が大きい。問題を読み取る力が不足しているため、問われていることが理解できないことも多い。	常に問われていることは何かを意識した学習を進める。考える時間では、互いの考えの交流を大切にし、問題演習では時間を十分にとって、自分で考える習慣をつけられるようにする。	くり返し学習などの練習を増やす。その中で子どもの習熟度に合わせた問題を用意する。児童の習熟度を考慮したクラス分けをし、効果的に学習を行う。
5年	個人差が大きい。「数量関係」では、文章問題を読んで数の関係を理解し、正しく立式する力が弱い。	少人数クラスを設定、レディネステストをもとに、クラス分けを行い、個に応じた指導を行う。問題作りを行い、数と数の関係について考えさせるようにする。	少人数クラスを効果的に活用し、コースに応じて内容を考えていく。問題文の数を変えて考えやすくしたり、問題作りを通して数量関係の理解を深めさせたりしていく。
6年	全体的に個人差が大きい。計算のように決まった手順で取り組むものについては大体大丈夫だが、きまりを利用したり、図形を操作したりして、きまりを見つけたりする力が弱い。	既習事項を活用し、問題解決にあたる方法を身に付けさせる。ワークシートなどを利用し、多様な考えができるように工夫したり、算数的な活動を通して具体的に学ばせたりすることで、わかる楽しさを味わわせていきたい。	ワークシートや少人数指導を工夫することで、個人差にも対応できるようにする。また、見通しをもって課題に取り組むことができるように、導入を工夫する。

指導方法の課題分析と具体的な授業改善策及び補充指導等の計画

理科

練小44 立野小学校 平成24年度

教科	指導方法の課題分析	具体的な授業改善	補充・発展的指導計画
1年			
2年			
3年	教材にする動植物の吟味が大切である。また観察の際に適切な観点を与えて、科学的なものの見方の基礎を育てていく。	記録を丁寧にとらせ、継続していくことで学習を振り返り、科学的なものの見方ができるようにする。理科としての学習の観点を大切にして授業を進める。	観察したことで得た知識を他の生物に当てはめて考えられるか調べさせる。生活経験や体験を充実させ、身の回りから得た知識をまとめていく。
4年	実験では調べることを明らかにして問題に取り組めたが、観察では視点を明らかにした記録をとるのが苦手であり、その力をつけていくのが課題である。	問題解決型の学習をより強く進めていく。自分の生活経験を意識した問題作りを行う。事象提示では、比較できるものをより多く取り入れる。	身近なことの気づきを進んでとりあげ、観察のポイントの指導も行っていく。子どもから出た疑問から問題を作っていくようにする。
5年	物事を科学的に解明するために、自分たちで実験方法を考え、見通しをもって取り組み、問題を解決する力が十分には身につけていない。また、その実験が何を解明するために行っているか、その意味を理解していない児童がいる。	実験をする前には、疑問点を解決するための学習だということを確認する。疑問点があつて、実験がついてくるということを押さえる。また、実験の前に仮説を立てることで、その意味を理解できるようにさせる。	発展的指導として、理科の学習が、実生活に活用できるようにする。そのために、具体的な場面を設定し、どうなるか、何でそうなるのかなどを考えさせる。
6年	各種の観察や実験については意欲的に取り組めており、実験器具の扱いにもなれてきた。実験を通して何を明らかにするのか、めあてをもって取り組むことが課題である。見通しをもって考える過程を大切に、科学的な見方や考え方ができるように指導していきたい。	問題解決の能力である「比較」「関係付け」「条件の着目」「多面的な追究」を授業の中ではっきりとらえさせるようにする。めあてに応じた追究の仕方、何が明らかになったのかが具体的にとらえられるようにする。既習事項を振り返ることができるように、ノートを活用させる。	実験では、課題を意欲的に解決する過程を大切に、様々な方法にできる限り対応していく。適宜、自分の身の回りの環境とのつながりを意識させ、学んだことが生活の中で生かされるようにしていく。

指導方法の課題分析と具体的な授業改善策及び補充指導等の計画

音楽

練小44 立野小学校 平成24年度

教科	指導方法の課題分析	具体的な授業改善	補充・発展的指導計画
1年	自分の声を精一杯出して歌おうとしたり、音楽にあわせて身体表現をしたりと、楽しんで学習に取り組んでいる。鍵盤ハーモニカは少しずつ個人差が出てきた。	自分の歌声や発声に気を付けて歌うようにすることを念頭において指導する。鍵盤ハーモニカは個別指導を増やし児童にあったアドバイスや課題を与える。	教科書の歌だけではなく、子どもたちが好きな曲も取り入れていく。自己表現を豊かにするために、即興的に身体表現をさせたり、リズム遊びなど音遊びを楽しんだりする活動を取り入れる。
2年	意欲関心は高く体ごとリズムに乗る児童が多い。歌唱は口をあけて声をそろえて歌うことができる。鍵盤ハーモニカは意欲的に取り組んでいるが個人差が大きく個別指導が必要。	いろんなジャンルの曲を与え、意欲感の高まるよう子どもたちの好きな曲を授業の中に取り入れていく。鍵盤ハーモニカは、個別指導の機会を増やし、技能の定着を図る。	鍵盤ハーモニカは個別指導や家での練習を行えるよう促す。また、行事や放課後の活動がないときを見つけ、補習に当てる。いろいろな楽器と組み合わせて演奏する機会を増やし、演奏の楽しさを体験させる。
3年	表現活動は好きで、音楽がなると体を動かして踊ったり、一緒に歌いだしたりと、楽しんで取り組んでいる。リコーダー等練習が必要な楽器に苦手意識を持つ児童がいて、個別指導が必要である。	教科書の歌だけでなく、子どもたちが好きな曲をどんどん授業の中に取り入れていく。リコーダーについては、児童による教え合いや、個別指導の機会を増やし、苦手意識を取り除いていく。	行事や放課後の活動がないときを見つけ、補習に当てる。いろいろな楽器と組み合わせて演奏する機会を増やし、演奏の楽しさを体験させる。
4年	歌唱では、声の出し方がバラバラなので高学年の声を意識させ発声を指導していきたい。リレー唱やリレー奏を取り入れ、一人で演奏することに慣れさせ自信をもたせたい。	話す声と歌う声のちがいを意識させ、歌唱は柔らかい声で歌うよう指導していく。リコーダーは、副教材等を使って個別に指導していく。	時間を取って検定をして、個別指導をしたり、よりレベルの高い物を望む児童は副教材を進めさせたりする。頭声的な発声や呼吸の仕方等、友達同士で確かめ合う場を設定したり、よい表現の児童を紹介したりして、全体で高め合えるようにする。
5年	歌唱ではのびのびと自分を表現することに恥ずかしさを感じている児童や怒鳴って歌う児童がいて様々である。声の出し方の指導や、友達の声を聴きあって高めあう活動を多く取り入れていきたい。	一斉指導、少人数のグループ指導、個別指導等、様々な学習形態を取り入れ、お互いにいいところを見つけたり、アドバイスをし合ったりする活動を取り入れる。	鑑賞時間をとって静かに音を聴く機会をとる。いろんな楽器と組み合わせて演奏する、合奏の機会を増やし演奏の楽しさを体験させる。
6年	一人で歌ったり演奏したりする場面を設定し、耳をすまして音を聴こうとする姿勢が身についてきた。良い表現をめざそうと、意欲的な児童が多い。リコーダーについては個人差が目立ち、苦手意識から合奏の楽器決めで打楽器を選ぶ傾向が出てきている。	鑑賞曲を吟味し、音楽を聴く楽しみや憧れをもたせることができるようにしていく。器楽や歌唱でも、目指すものを明確にして練習に取り組ませる。お互いの声や音を大事にし、よい表現は紹介したり、称賛したりする。難しいリコーダーの運びのやり方は個別指導をする。	グループや個別活動を取り入れ関心を持たせる。個別指導を取り入れ自信をもって音楽活動ができるようにする。

指導方法の課題分析と具体的な授業改善策及び補充指導等の計画

図工

練小44 立野小学校 平成24年度

教科	指導方法の課題分析	具体的な授業改善	補充・発展的指導計画
1年	どの題材に対しても、意欲的に取り組んでいる。初めての素材や題材が多いためか時にはハイテンションになってしまうこともある。	図工室でのルールを守って、楽しく活動できるように、素材や場の設定を考慮して準備する。ハイテンションになるのではなく、描くことやつくることが楽しいという体験を沢山させる。	十分な時間と場をつかい造形遊びをおこなったり、自由に描いたりつくったりできるような子どもにゆだねることを重視した題材を設定する。
2年	どの児童も表現活動には意欲的に楽しんで取り組んでいた。友達の作品も興味をもって見たり認め合ったりすることができた。イメージはあっても、絵や形に表現するのが苦手な児童もいるので、支援が必要である。	作品作りの具体的な表現が浮かばない児童もいる。そのため、導入で教科書の作品を鑑賞したり、児童の声や思いを発表させる機会をつくりたりしてイメージをもたせる。また、始めから考えを明確にせず、つくりながら思いついたことを形にあらわすことも大切にできる教材などを工夫する。	作品に、より関心をもって取り組めるよう助言しながら、活動を保障していく。具体的な表現方法を提示し、作品により関心をもってねばり強く取り組めるよう配慮する。同学年、他学年の作品のよさ、美しさを感じ取れるよう鑑賞のしかたを指導する。
3年	表現活動は好きで意欲的に取り組める。使い始めた道具にも興味をもって扱っている。友達の作品にも興味をもって見ている。	繰り返し道具や材料の安全な扱い方を、作品づくりや素材体験を通して学ばせる。自分や友達の作品を見るなど個々の作品を通して表現や鑑賞の機会をつくる。	自分で作品の材料を準備して、作品により関心をもって取り組めるよう助言し、満足のいく仕上がりとなるよう子供の活動に寄り添う。
4年	表現活動には意欲的に取り組む。様々な種類の材料や絵の具、工具、彫刻刀を使用する題材を体験をさせている。さまざまな道具を使用する活動の時に、片付けなど散漫になることがある。	多様な材料や工具、道具を使用しての作品作りに児童が主体的に取り組む題材を設定する。道具や材料の基本的な扱い方は、繰り返し教えることにより身につけさせると同時に、児童がお互いに教え合いや片づけで協力できるような課題を設定する。	友達の作品のよさや美しさを感じ取れるようギャラリートークを取り入れる。グループによる活動を積極的に活用する。
5年	「機能のある作品」をつくってみるなど、道具の扱いも高度になっている。絵画的、デザイン的な作品も感性を働かせながら、児童がイメージを膨らませて描いたり、つくったりしている。	材料道具、工具の安全で基本的な扱いは、題材を通して繰り返し指導していく。絵の具の扱い方等も、参考作品を見せることにより、より多くの表現方法に気づかせる。芸術作品等の関連ある例示を準備する。	題材に合った教室環境をつくり、場の設定をする。美術館、博物館、図書館などの関連あるものを紹介していく。
6年	題材に考慮しながら様々な描き方、手法を使い活動している。鑑賞と表現とのつながりを意識させ、広い視野からの活動ができるようにすることが課題である。	彫刻刀や工具、道具などの使用経験はあるが、繰り返し指導することにより、安全な扱い方、使い方を定着させたい。デザインの、日本画的な表現など多様な表現方法があることを理解し、作品に活かせるように題材を設定していく。芸術作品等の関連ある例示を準備する。	題材に合った教室環境をつくり、場の設定をする。美術館、博物館、図書館などの関連あるものを紹介していく。

教科	指導方法の課題分析	具体的な授業改善	補充・発展的指導計画
1年	<p>2年生と学校探検を行うことにより、1年生だけで行ったときより、学校に対して興味をもつことができた。さらに自分たちだけで探検し、関心を深め授業外にも活動が広がってきている。</p> <p>一人一人がアサガオなどの植物を育てることで自然に関心をもち、生命を尊重する気持ちを育くむことができた。</p>	<p>1学期は学校内での活動がほとんどだったので、学校近くの公園や地域など活動範囲を広げ遊びを取り入れ、自然、友だちと関わる活動を行う。</p>	<p>友達と遊ぶだけでなく、動物や昆虫、植物と関わり、自然とふれあう機会を多くとる。アサガオとチューリップを一人一鉢育てることで自然に関心をもたせるとともに、アサガオのつるで秋のリースを作り、自然とのつながりを実感させる。</p>
2年	<p>「学校たんけん」では2年生になった自覚を高め、1年生とのかかわりを深めることができた。</p> <p>「町たんけん」では、地域や家庭の協力があり児童一人一人の思いや願いを実現することができた。また、地域に関心をもち、人とのかかわりも深まった。</p> <p>「野菜をそだてよう」では、ひとり一鉢で世話をさせた。きちんと世話をして収穫の喜びを味わうことができた。</p>	<p>夏休みにチャレンジカードを課題として、児童に日常生活の中でできる多様な体験をさせ、興味の幅を広げられるよう工夫する。収穫した野菜でパーティーをするなど、収穫の喜びを共に味わえる活動をさせる。</p>	<p>生活体験を充実させることの大切さについて話し、家庭にも協力をお願いする。小動物の飼育を行ったり、一人一鉢の植物を育てたりすることで自然に関心をもたせ、継続して育てる気持ちを育くむ。</p>

教科	指導方法の課題分析	具体的な授業改善	補充・発展的指導計画
5年	<ul style="list-style-type: none"> 家庭生活の中で、学習・お稽古事などが重視され、児童自身もその必要性を感じていない。家族の一員という自覚をもたせたい。 裁縫は、個人指導が必要不可欠。反復練習と、集中力をつけることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 家族にも役立つ整理整頓を投げかけ、1週間実施した。その結果を保護者に書いてもらい提出させた。とても手間のかかることで、保護者も担任もチェックが大変であったが、あえて実施し、効果は感じられた。 裁縫時は、保護者の支援を呼びかけた。個別指導を分担してもらい、全体指導にあたることができ、とても徹底した指導ができた。また、すぐに問題解決ができるので児童の意欲も向上した。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題として与えられた期間は実行して、その大切さを実感しているが、習慣付けるためにも更にチェック回数を増やす。 できない児童への支援として、さらに保護者の支援を仰ぐ。また、子どもの実態に合う実習教材を開発する。
6年	<ul style="list-style-type: none"> 家庭生活をよりよくしようと学習に取り組むが、家庭の一員としての役割を果たしていない児童が多い。家庭において家族としての役割を果たすための働きかけが少ないこと、児童自身が家族としての役割を果たす必要性を感じていないことが主な課題であると考えられる。 実習や作業は、すすんでやろうとする意欲に溢れており、技能が高い児童もいる半面、自分の技量と現実の狭間で苦慮している児童も多い。家庭での生活体験の差によるものと思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分も家族の一員であり、家族を大切にするためには具体的にどのような行動ができればいいのかを話し合わせ、実践につなげられるように意欲を高める。 自分が自立すること、行動力をつけることを勧め、繰り返し実践できるよう時間を設定する。 具体的にどのようなことをすればいいのか分かるように、実習や作業の見通しをもたせる。技量に支援が必要な児童には、スモールステップで手順が踏めるように配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> 普段の生活及び長期の休みの前後、児童を通して、家族への働きかけを促す。また、調理や洗濯などの宿題として出し、関心を高める。 課題に迫る作品を数多く提示し、自らの力にあった物を選択し、徐々に実習の難易度に対するステップがあげられるように励まして行う。

指導方法の課題分析と具体的な授業改善策及び補充指導等の計画

体育

練小44 立野小学校 平成24年度

教科	指導方法の課題分析	具体的な授業改善	補充・発展的指導計画
1年	運動経験の差が大きいので、運動の仕方をよく理解し取り組めるよう繰り返し行った。遊具を使う遊びを取り入れたり、小グループで行うことで声を掛け合ったり仲良く運動することができた。	いろいろな運動を経験させる。児童一人一人にめあてをもたせ、努力してできた喜びを味わわせたり、意欲、自信をもたせたりして、達成感を味わわせる。	四肢や体を作る簡単な運動を繰り返し行ったり、楽しんでできる運動を工夫したりする。運動のルールを守り、仲良く運動できるようにする。休み時間の遊びも進んですることで体作りにつなげていく。
2年	運動経験の差が大きいので、運動の仕方をよく理解し取り組めるよう繰り返し行った。規則を守り仲良く楽しく運動に取り組むことができた。鉄棒遊びを継続し、ねばり強く取り組む児童も増えてきた。	いろいろな運動を経験させる。学習カードを活用し、めあてをもち、意欲をもって取り組み達成感を味わわせて、次につなげていけるよう工夫する。ボールゲームやリレーなどチームで取り組む運動では、認め合い仲良く、楽しく運動できるようにする。	四肢や体を作る簡単な運動を繰り返し行ったり、楽しんでできる運動を工夫したりする。いろいろな運動に取り組む姿勢を育てる。休み時間、進んで外遊びをさせることで体力向上につなげていく。
3年	ゲーム領域、特にボール運動に関しては、意欲的に取り組み楽しく活動しているが、「基本の運動」の「跳び箱運動」に関しては、苦手意識を持つ児童が多い。	児童一人一人の能力を正しく把握し、その課題に合った目標を設定し、カードを使って取り組めるよう工夫する。個に応じた適切なアドバイスをし、スモールステップで到達した喜びを味わわせる。	腕や足の筋力を高める遊びを紹介し、日常生活の遊びの中で子どもたちの教え合い、学び合いの場をつくっていく。
4年	ゲームの領域については意欲的に取り組む姿勢が見られる。運動の技能面の基礎基本が身につけていない児童が見られ、助言が必要。 指導と評価の一体化を図る。	グループで活動する場面を設定し、構成メンバーに配慮し、お互いにアドバイスが出来るように工夫する。また、カードを活用して学習を進め、自己の課題がはっきりつかめるようにする。個に合ったアドバイスをし、できる喜びを味わわせる。 評価規準、及びつまずきの分析と手立ての明確化。	学習内容を基に楽しく活動できるように、場や時間の設定をしていく。活動中に気が付いたことや、工夫した所を適宜発表させ紹介していく。技能面の基礎基本を定着させるために、繰り返し練習する。
5年	「ボール運動」では、各自課題をもって意欲的に取り組む姿勢が見られる。「器械運動」では、マット運動や鉄棒などで個人差がとても大きく、苦手になっている児童が多い。	技のスモールステップ化を図り、一つの技の習得のために、小さな目標を刻んでいく。グループ学習を効果的に取り入れ、児童同士で教え合う機会を取り入れる。	「体づくり運動」を授業の初めに位置づけることで、体力を高めていったり、体をつくっていきたりする。また、繰り返し練習することも大切だが、ゲーム的要素も取り入れ、自然に楽しく取り組めるようにする。
6年	体を動かすことに関しては、好きな児童が多いが、自分の力を考えてめあてを設定し、そのめあて向かって主体的に活動できる児童が少ないように感じる。進んで学んでいける児童を育成していくことが課題である。	各領域で学習カードを活用し、意欲・関心を高め運動できるようにする。自己の能力に適した課題解決の仕方を工夫しながらねらいをもち、目標に達した場合は次の目標を設定し、目標に届かなかった児童へは、適切なアドバイスをする。	日頃より体づくりの大切さを話し、日常生活ですることのできる手軽な運動や動きを持続する運動の例を紹介する。休み時間などを使い、遊び・運動の中で体を動かす楽しさや心地よさを存分に味わわせたい。